

組 合 士

# アラカルト

東日本一般缶工業協同組合 事務局長



野口雅春さん

*noguchi masaharu*

## 組合士による組合士のPRの実践を

鉄が主成分のスチールを素材とする金属容器（飲料缶、缶詰缶、18リットル缶、ドラム缶を除く）である「一般缶」を製造する事業者等で構成される東日本一般缶工業協同組合（東京都台東区）は、設立以来、一般缶の需要喚起を図るためのPRや市場開拓、人材育成事業などを積極的に行っている。

事務局長の野口雅春さんは、昭和47年に東京都中小企業団体中央会に採用され、50年に中小企業組合検定試験に合格、「組合士の歴史」とともに歩んできた一人である。

今後の組合士の活動についてお聞きした。

### ●各組合士が積極的にアピールを

「ご承知のように、検定試験は東京都中央会の菅谷頼道前会長の創案により昭和44年に創設され、49年から全国中央会に移管されました。私も当時は東京都中央会の職員として働きながら組合士試験の勉強を続けました。翌50年に合格、現在まで組合士として仕事をさせてもらっています」と野口さん。名刺には「中小企業組合士」と印刷し、常にバッジもつけている。

「組合士は、組合と組合員のために貢献する重要な存在なので、全組合士がそのことを自覚し、あらゆる機会を通じてPRしていくことが必要だと思います。平成26年6月1日現在の組合士の登録者数は3,250名と発表されていますが、一般的な知名度はまだまだ高いとは言えません。今後も組合士の皆さんが

切磋琢磨しながら組合士の知名度アップにがんばっていただきたいと思っています」と話す。

### ●一般缶の美しさと機能性を広めたい

野口さんは、東京都中央会を定年退職した後、同組合の事務局長に就任した。

「組合の前身である東京ブリキ缶組合は10年に結成されています。その後は大戦などを経て53年に東京都鉄力製缶工業協同組合、中央鉄力製品工業協同組合、東部製缶工業協同組合が大同団結して今の組合となりました。現在は東日本の一般缶製造業者43社のほか特別会員4社、協力会員24社、協賛会員9社が加入しています」

一般缶は、主に食品（海苔、お茶、お菓子等）、塗料・化学薬品（インキ、ワックス、医薬品等）、生活雑貨（ファンシー商品、筆箱、吸い殻入れ等）の分野で使われている。

「いずれもお客様のご要望どおりのオリジナルな形状やデザイン・金属印刷を施すこともでき、その独創性で商品価値を高めることができます。もちろんデザインだけではなく内容物の遮光性、長期保存性、省エネルギーや美的感覚と機能性を兼ね備えた素晴らしい容器なのです。美しさ、形態の独創性、90%を超える非常に高いリサイクル率を誇り、日本でつくられる一般缶は、世界でもトップレベル。さまざまな商品価値の向上に役立っています」

### ●「群れアユ」のように

組合の事務局長として、一般缶のアピールに奔走する野口さんは、多忙ながら協同組合や組合士のすばらしさを実感する毎日を送る。

「読者の皆様にとって、『協同組合』とはどのようなものでしょうか。私は『群れアユ』の論理をイメージしています。川にすむアユの大半の若魚は群れをつくって生活します。体が小さく一匹では縄張りを持っていないアユたちが、体が大きくて縄張りを持つアユの“隙間”で共存しているのです。群れることは、外敵から身を守り、食物を確保するための手段なのです。『孤立は生存にとって不利』という自然界の基本原理がアユの世界にも存在していることに驚かされます。組合も小さな事業者が集まって連携することで共存共栄が可能になるのです。『協同こそみんなの力』、これは私が大好きな言葉です。組合と組合員、そして組合士が助け合い、この困難な時代を乗り越えていければと思っています」

山積する課題を「協同の力」で解決していくことは、今後はさらに重要になる。注目していきたい。